

8つのCと3つの力で さらなる成長都市に

ともながのりお
させほ 佐世保市長(長崎県) **朝長則男**
Norio Tomonaga



国際観光クルーズ客船が入港する「佐世保港」

天然の良港と称される佐世保港や自然美を誇る西海国立公園九十九島など、佐世保市は海とのつながりが深い港まちです。本市の発展も明治22年の旧日本海軍佐世保鎮守府の開庁を契機としており、市内には100年経った今も造船施設の250tクレーンや針尾送信所など世界最大級や日本最高技術を駆使して作られた施設が数多く現存しており、「日本近代化の躍動を体感できるまち」として「日本遺産」に認定されています。

天然の良港と称される佐世保港や自然美を誇る西海国立公園九十九島など、佐世保市は海とのつながりが深い港まちです。本市の発展も明治22年の旧日本海軍佐世保鎮守府の開庁を契機としており、市内には100年経った今も造船施設の250tクレーンや針尾送信所など世界最大級や日本最高技術を駆使して作られた施設が数多く現存しており、「日本近代化の躍動を体感できるまち」として「日本遺産」に認定されています。

また、本市は観光地としても全国的に有名なハウステンボスや、本年「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟認定される西海国立公園九十九島などを有しており、まさに基地と観光が共存共生する都市であると言えると思います。

3つのC

私が初めて市長に就任した時、政治信条である市民第一主義を実現するため、仕事に取り組む姿勢として市職員に話した3つの「C」をご紹介します。

- ①「チャレンジ」―新しい事に慎重になり過ぎず、何事にも積極的に挑戦してほしい。
- ②「チェンジ」―時代の変化や制度の変化、住民の考えや行動の変化などに柔軟に対応し、変えることと自身が変わることを恐れない職員になってほしい。
- ③「コミュニケーション」―仕事や自身の成長のため、市民はもとより、職場の関係者や家族などとのコミュニケーションを大事



観光拠点となっている「西海国立公園九十九島」

にしてほしい。

近年では、新年の仕事始め式の際に、その年に特に職員に心掛けてほしいことを「C」をキーワードにして伝えることが慣例になり、現在「8C」となりました。残りの5つは以下のとおりです。

- ④「チャンス」―チャンスを見逃さず、事業や政策への取り込み、人脈拡大につなげる可能性を求めてほしい。
- ⑤「クリエイティブ」―創造することを常に意識し、喜べる市職員になってほしい。
- ⑥「チェック」―仕事上のチェック、自身の健康チェックを怠らないでほしい。
- ⑦「コンフィデンス」―市民や関係者、家族

から信頼される人であり続けてほしい。
⑧「コンティニュー」―継続は力なり。続ける大切さを意識してほしい。

この8Cは私にとっても大切な言葉であり、常に考えや行動の基本としています。

体力・気力・知力の維持

「体力、気力、知力は政治に携わる者の基本要素であり、どれか一つでも欠けると良い政治はできないから、政治を志したからには常にこの3つの力に磨きをかけ続け、維持を図りなさい」

31年前、市議会議員に初当選した時、私が最も尊敬していた方からいただいた教えです。振り返ってみますと、「体力」については、高校時代まで野球をやっていた関係で、社会人になってからも野球チームに入りました。1番センターのレギュラーメンバーとして県議会議員時代の50歳まで続け、以降は毎日1人でできる事として、早朝1時間約6・5kmの速歩ウォーキングを



野球大会で始球式を務める筆者



佐世保港の近くで早朝ウォーキングを行う筆者

続けています。毎日継続しているおかげで体力は維持できているようで、市長就任以来1日も休まず公務を続けています。

2つ目の「気力」については、選挙時の市民との約束を果たす気持ちです。自ら立候補し何万票という支持をいただいていた就任しましたので、どんなことがあっても弱音は禁物であり、「常に前に進む」という思いで職務に取り組んでいます。この気持ちで気力の維持の原動力になっているのではないかと感じています。

3つ目の「知力」に磨きをかけることについては、書籍やインターネットからだけでなく、できるだけ人に会う、現地に

行く、現物を見るなどのことを積極的に行っていきます。また、日ごろからの市職員との対話も知力の維持につながっていると思います。

成長可能性を現実のものに

本市は、観光のまち、基地のまち、国際都市など、多様性がある複合産業都市です。このほかにも市町村別漁獲量全国第4位を誇る水産都市、高級ブランドみかんや長崎和牛など農畜産業のまち、元気な商業都市など多彩な側面があり、昨年7月には、このような本市の多様性を受け入れる風土などが認められ、野村総合研究所の「成長可能性都市ランキング」で、全国主要100都市中第10位と評価されました。

今後も2020年4月には、国際クルーズ船拠点形成港湾として年間300隻以上の国際クルーズ客船の寄港と約百万人の観光客の増加が見込まれており、また、IR実施法案が成立し、ハウステンボス地域が区域指定を受けることが前提になります。このことも成長可能性の大きな要因になると思います。

日本本土最西端に位置する佐世保市ですが、これらの可能性を現実のものとするため、これからも「8つのC」を基本姿勢とし「3つの力」を発揮しながら、市民の皆さまとともに、一歩一歩確実に歩みを進めてまいります。